

# 2019年2月期第2四半期 決算説明会資料

サインポスト株式会社



2018年 10月16日

---

# 目次

---

1. 2019年2月期第2四半期 決算概況
2. 事業概況及び成長戦略
3. 参考資料

---

# 1. 2019年2月期第2四半期 決算概況

## 1-1. 今年度の取組み方針 (2018年4月公表)

---

- ◇ 金融機関を中心としたコンサルティング事業は、幅広いニーズに応え引続き着実に成長させる。
- ◇ ソリューション事業、イノベーション事業については、現在がディープラーニングの技術革新期であることより、今後の飛躍的成長を見据えイノベーション事業に傾注。
- ◇ イノベーション事業に関しては、事業展開を加速するため、自社内の体制強化や、製品開発および利用各社との提携を推進。

# 1-2. 2019年2月期第2四半期 決算ハイライト

(単位:百万円)

	2018年2月期 第2四半期	2019年2月期 第2四半期	前年 同四半期比	概要
売上高	1,468	1,423	△3.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサルティング事業の受注が堅調に推移</li> <li>イノベーション事業の研究開発を加速</li> </ul>
コンサルティング事業	943	1,208	28.1%	
ソリューション事業	525	198	△62.2%	
イノベーション事業	—	16	—	
営業利益	140	166	18.8%	
経常利益	136	165	21.0%	
四半期純利益	99	110	11.2%	

# 1-3. 2019年2月期 通期見通し

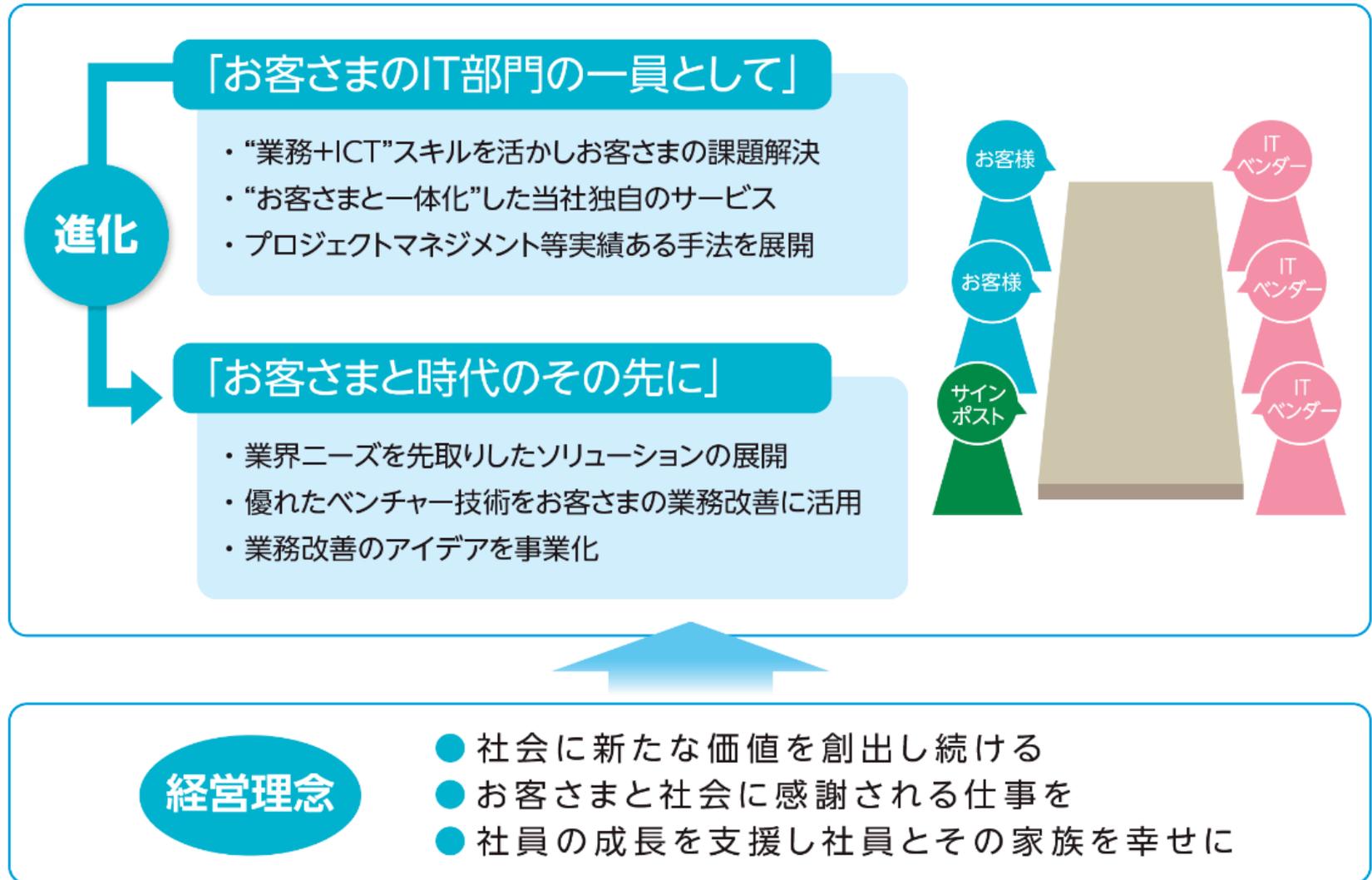
(単位:百万円)

	2018年2月期	2019年2月期見通し	前年同期比
売上高	3,024	3,126	3%
コンサルティング 事業	2,109	2,410	14%
ソリューション 事業	832	508	△38%
イノベーション 事業	83	208	150%
営業利益	370	401	8%
経常利益	357	398	11%
当期純利益	245	258	5%

---

## 2. 事業概況及び成長戦略

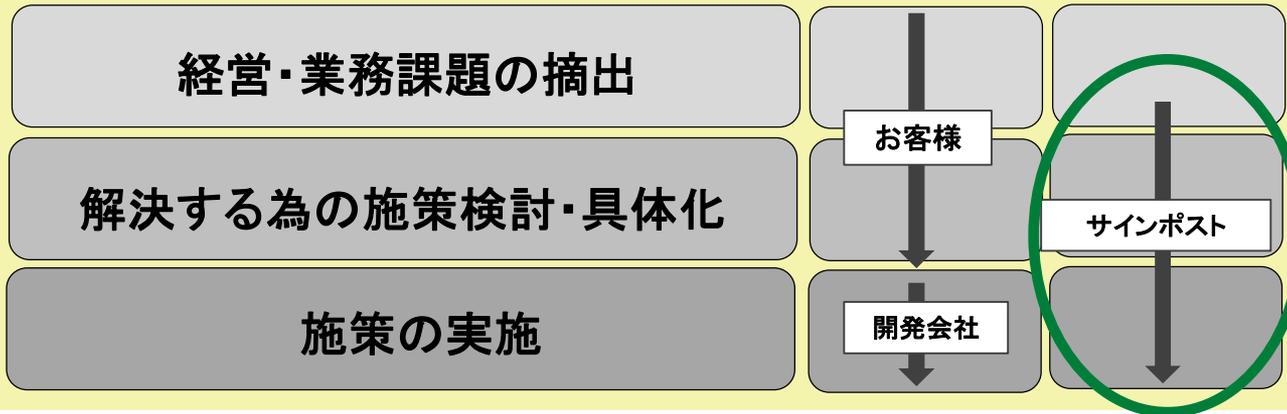
## 2-1 (1). 事業の概況



## 2-1 (2). 事業の概況

### 「お客様のIT部員の一員」として

#### <サインポストの作業範囲>



#### <サインポストの事業>

(1) コンサルティング事業 ⇒ 高度な業務・業界知識で課題解決

(2) ソリューション事業 ⇒ 先端ICT技術を活用し課題解決

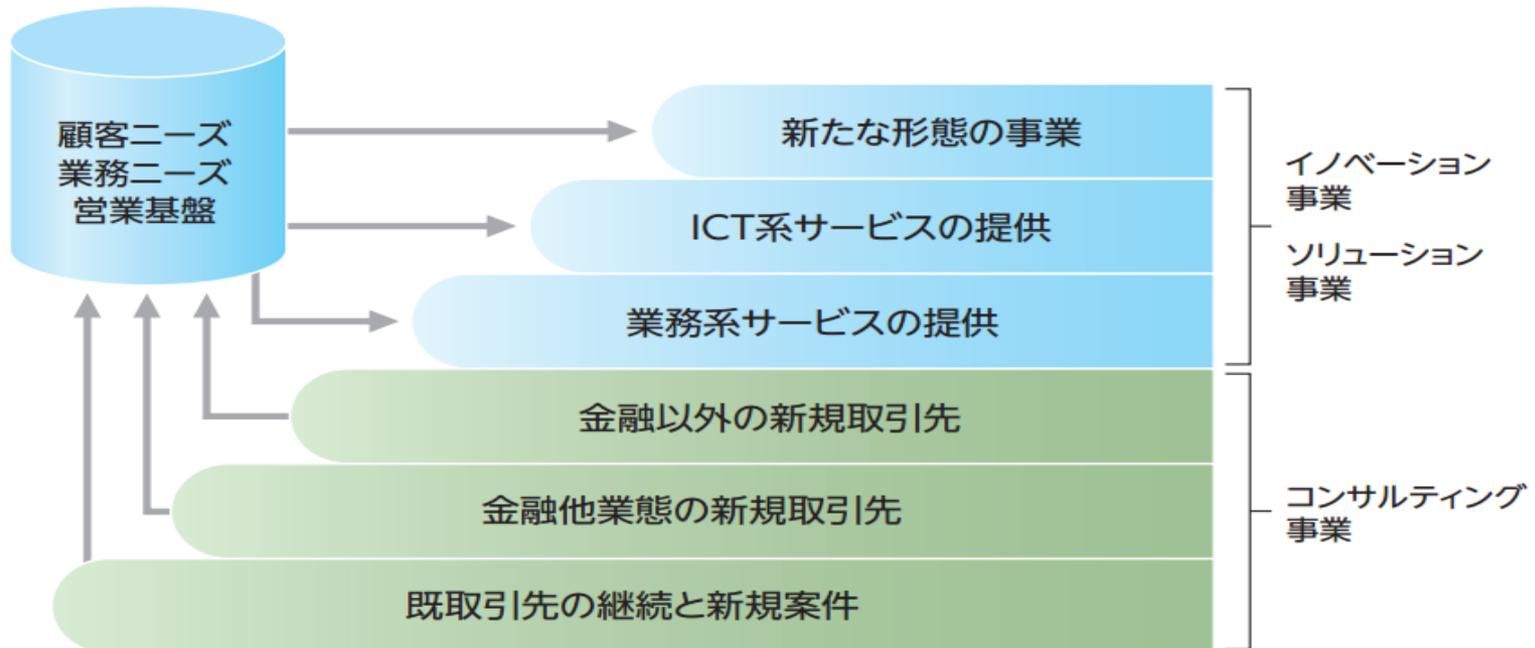
(3) イノベーション事業 ⇒ A.I.技術を研究開発し課題解決

## 2-1 (3). 事業説明

### 事業全体の構造

当社の事業は、「コンサルティング事業」、「ソリューション事業」、「イノベーション事業」の三つの事業セグメントから成り立っており、会社全体としては、各事業が相互に関連性を持ちながら展開をしていく事業構成になっております。

コンサルティング事業による安定的且つ成長性のある事業運営をベースとして、コンサルティング事業で培った顧客ニーズや業務ニーズ及び営業基盤を活かしながら、新たなサービスの提供や他業態に対してサービスを提供するソリューション事業とイノベーション事業を展開しております。



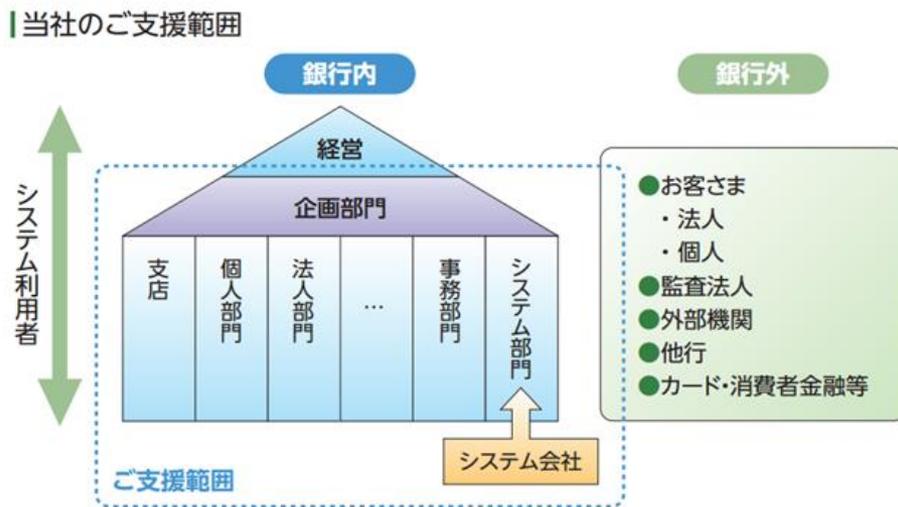
## 2-1 (4). 事業概要

### ① コンサルティング事業

当社のコンサルティング事業は、社会インフラであることから情報システムに対する品質への要求水準が一般企業と比べて高い金融機関及び公共機関向けに業界を絞り、専門性を高めたサービスを展開しております。

当社は、第三者的な立場ではなく顧客企業の組織の一員(=当事者)として、情報化戦略、システム化構想、業務改善等を提案し、システムの企画・設計・開発・運用の実行支援やマネジメント支援を通じて、問題解決まで主体的に対策を実行する点に特徴と優位性があると考えており、顧客企業の課題解決に貢献しております。

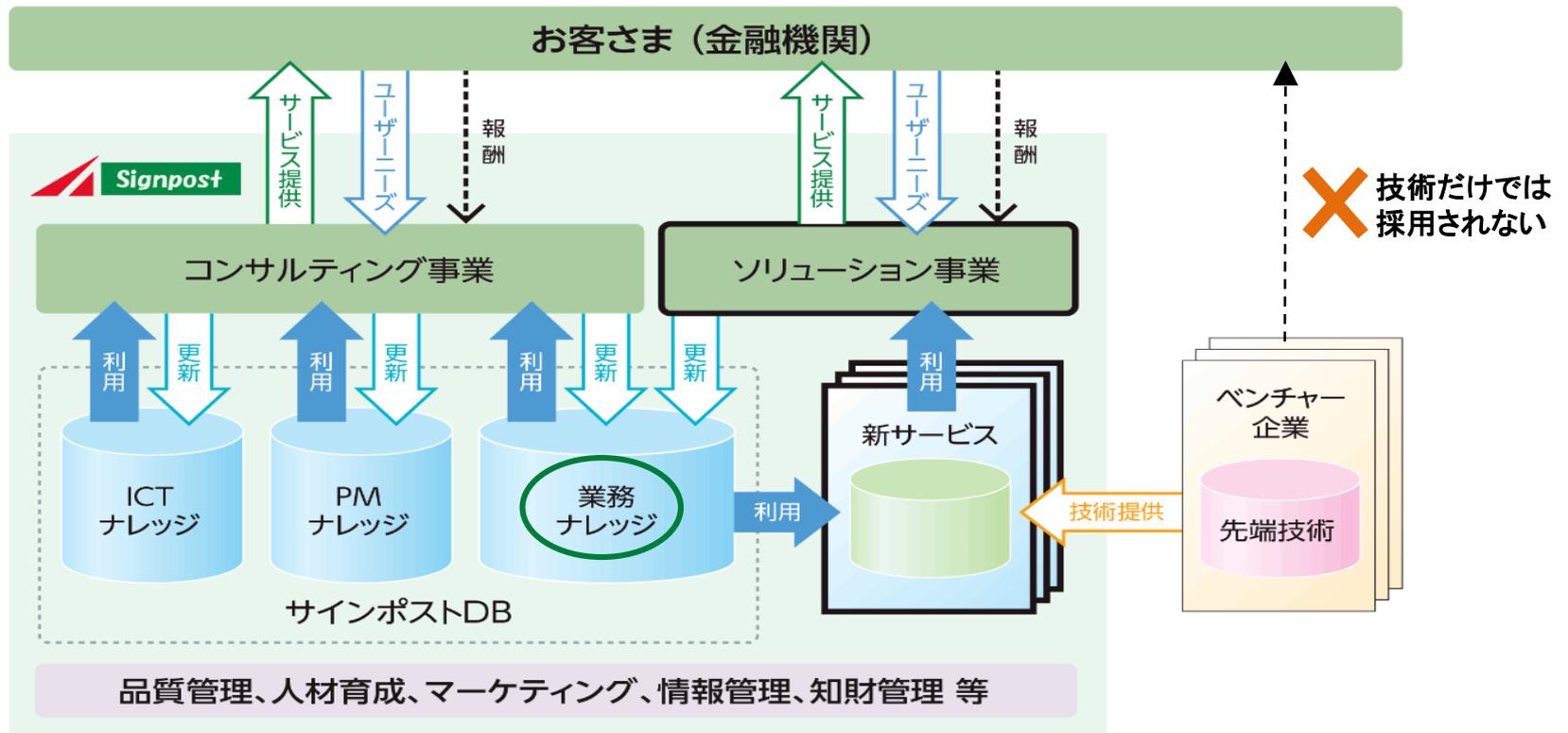
また、当社はシステム部門のみならず、顧客企業の経営や各業務部門から顧客企業外の関係者の対応まで幅広く支援することで顧客企業の課題を本質的に解決し課題解決に必要な全領域を幅広く支援することから、数年間に渡って取引を継続する顧客先が存在しております。



## 2-1 (5). 事業概要

### ② ソリューション事業

当社が把握している顧客の抱える業務的な問題・課題を解決するために、コンサルティング事業で培った業務ナレッジとベンチャー企業が有している先端技術を応用し新たなソリューションを開発、提供しております。

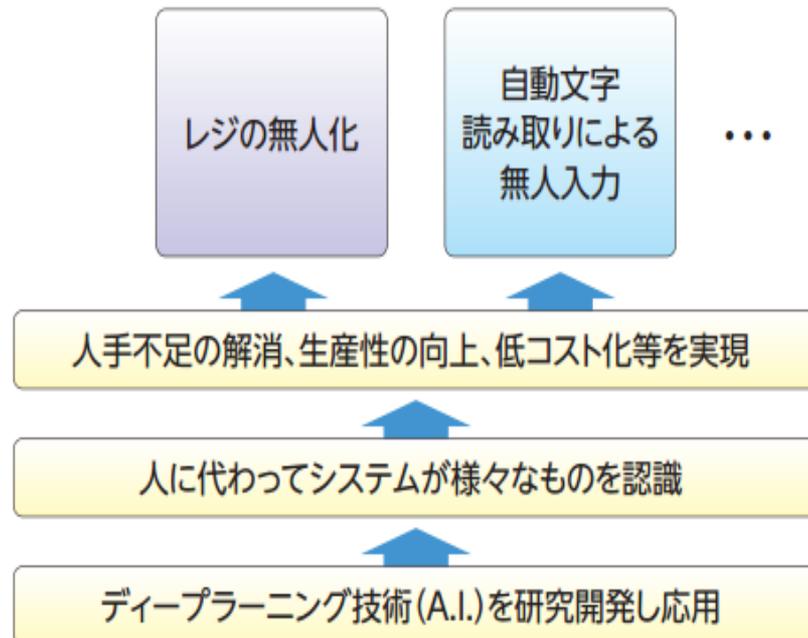


## 2-1 (6). 事業概要

### ③ イノベーション事業

当社は、AI技術を用いて様々な社会問題を解決するため「お客さまのIT部門の一員」として、従来の金融機関及び公共機関にとどまらないイノベーション事業に取り組んでおります。

Wonder Register™ ー世界初 A.I.搭載レジスター



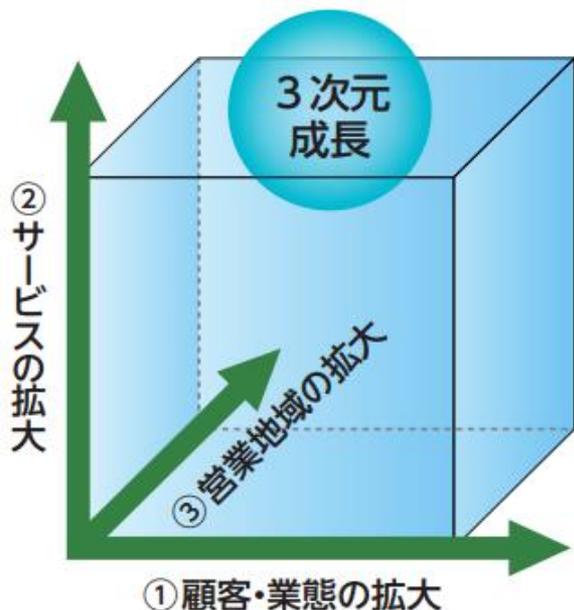
## 2-2. 事業拡大方針

### 事業の特徴・差別化を活かした3次元の事業拡大

当社の成長戦略といたしましては、以下の①～③の三つの方向からなる三次元での成長を志向しております。

基軸となる金融業界内での顧客層を拡大しつつ、その実績を基にした他業態への事業展開を行うこと。また、顧客との継続的なリレーションを活かしてニーズに即した新たなサービスを開発しつつ、業務・業界のニーズを先取りした新サービスの開発を行っております。

営業地域につきましては、国内外へ展開して参ります。



#### ① 顧客・業態の拡大

- ・顧客満足による顧客の増加、リピート
- ・実績を基にした他業態への展開

#### ② サービスの拡大

- ・顧客ニーズに適合した独自のサービス
- ・業務・業界ニーズを先取り

#### ③ 営業地域の拡大

- ・国内外への展開

## 2-3. イノベーション事業について

ディープラーニングによる画像認識技術を有する当社独自開発の人工知能「SPAI」を、様々な分野の人手不足解消や生産性向上に活用

### ■小売店舗の課題

- 人手不足の解消
- 財務体質の改善
- 機会損失の改善



### ■「SPAI」を使った課題の解決

- レジの無人化
- 無人店舗の実現



設置型AI搭載レジ「ワンダーレジ」を開発



レジ無しスルー型「スーパーワンダーレジ」を開発

## 2-3 (1). 製品説明

### ■設置型AI搭載レジ「ワンダーレジ」



- 利用者自らが購入したい商品をレジの中に置き、画面をタッチするだけで精算できる無人レジ。
- 複数の商品を一括で認識するので、素早くお買い物ができます。

### ■レジ無しスルー型「スーパーワンダーレジ」



- レジ作業を必要としない完全スルー型システム。
- 利用客は、商品を手に取るだけで精算することができます。

## 2-3 (2). 技術

---

### ■ SPAI

- サインポストが独自に開発した人工知能  
⇒ 特許を多数出願

### ■ 特徴

- 画像から様々な特徴を捉えて商品や人を認識
- 文字、数字等を認識
- 識別ができないものは「わからない」とアウトプット
- RFID(ICタグ)やバーコードが不要

### ■ 用途

- 商品認識
- ラベル認識
- 物体追跡
- 人の追跡
- マーケティングへの応用

## 2-3 (3). ワンダーレジ導入メリット

### ➤ 小売店舗のメリット

- ① 素早い精算を実現し、レジ待ちを緩和
  - 「SPAI」により複数の商品を瞬時に特定  
(バーコードは、商品毎にシリアルに精算)
  - 現状のレジスペースに2台設置可能
- ② レジの業務が効率化され、店員の数や機会損失を削減
- ③ バーコードの無い生鮮食品や新聞等も認識可能
- ④ RFID(ICタグ)の貼付け作業が不要
- ⑤ 購入者の年齢、性別を推定して、正確な消費動向を収集



### ➤ 利用客のメリット

- ① 素早い精算により、レジ待ちのイライラを解消
- ② 購入商品全てのバーコードをスキャンする手間が不要
- ③ 全ての決済手段に対応可能で、事前の利用登録等の手間なし

## 2-3 (4). スーパーワンダーレジ導入メリット

前述の「ワンダーレジ導入メリット」に加えて…

### ➤ 小売店舗のメリット

- ① 精算、決済に関する業務を完全自動化
- ② 利用者の動線や売り場レイアウト等の分析が可能
- ③ 手に取った全ての商品が精算されるため不正ロスを撲滅

### ➤ 利用客のメリット

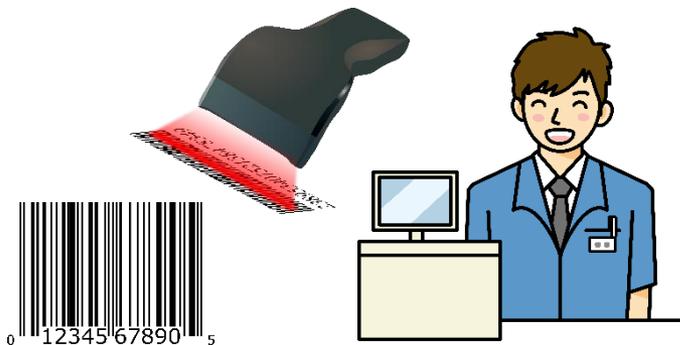
- ① レジ操作が不要で、スルー退店
- ② 商品をマイバッグに直接入れることで、カゴからの移し替えが不要



## 2-3 (5). POS等の既存システムをそのまま利用

JANコードを利用することで既存のシステムを活かして導入が可能

従来のレジ



ワンダーレジ



スーパーワンダーレジ



レジ内で商品名とJANコードを紐づけ



## 2-3 (6). 利用事例

### ■ワンダーレジ

- 電気通信大学: 生協 (2017年7月~2018年1月)
- 大手企業: 弁当販売 (2018年6月~)
- JCB高田馬場オフィス: 売店、弁当、デリ (2018年9月~)

#### 利用客の感想

「早くスムーズに会計できるので、並ばなくていい。」

「試しに利用してみて、感動しました。」

「最新のテクノロジーに触れました。」

他にも、未来を感じる、すごく賢い、便利などの感想を多数いただいています。



電気通信大学 生協内

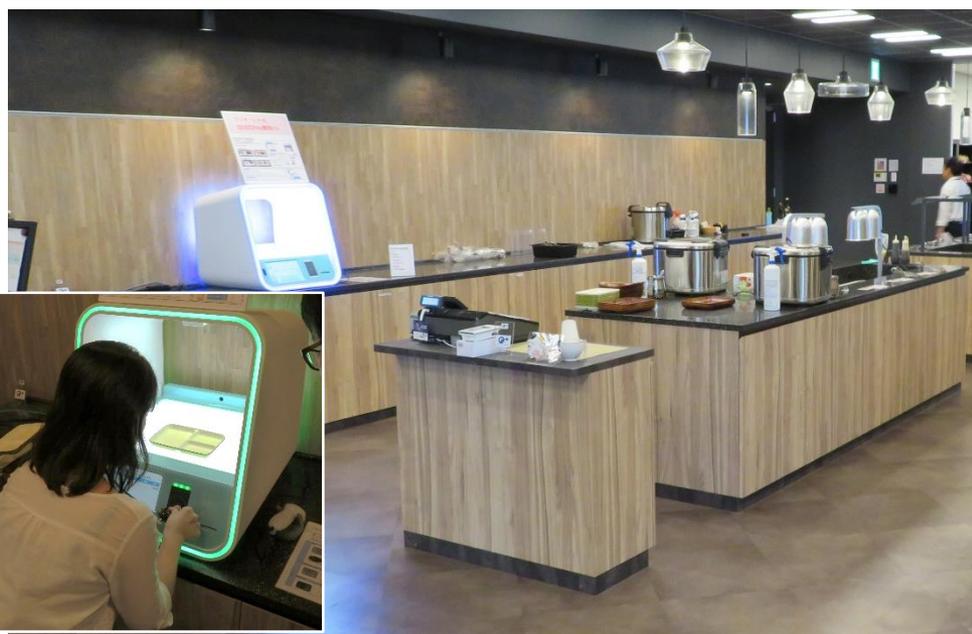
### ■スーパーワンダーレジ

- JR大宮駅 (2017年11月)
- JR赤羽駅 (2018年10月~)



JR大宮駅 特設店舗

## 2-3 (7). ワンダーレジの実証実験の様子



場所	JCB高田馬場オフィス内
期間	2018年9月28日～
設置台数	3台
用途	① 売店コーナー ② 弁当コーナー ③ デリコーナー
決済方法	QUIC Pay



## 2-3 (8). スーパーワンダーレジの実証実験の様子



外観



内観



場所	JR赤羽駅 5、6番線ホーム
期間	2018年10月17日～
決済方法	交通系電子マネー

## 2-4. これからの展開



2020年度(2021年2月期)までに  
3万台相当の導入を目指す

ワンダーレジ

スーパーワンダーレジ



空港内売店

⋮



## 2-4. これからの展開 ～SPAIIの応用例～

### ■ 自動文字読み取り技術

#### ① 機能

「SPAII」を応用して、数字、漢字、かな、記号等をコンピューターが自動で読み取る技術を開発。

#### ② 用途等

OCR(光学文字認識)が誤認識する手書き文字や、自治体によってフォーマットが異なり解読できない帳票等を「SPAII」が自動認識することで、手作業で入力している事務を省力化。

指定 番号	12345	宛名 番号	6789	市町村 コード	098765	受給者 番号	43210
住所 二丁目 3番37号							



AIにて読取り

認識結果

```
Processed 1/1 images ...
Classification took 0.9751
99.9972% - "1"
0.0025% - "7"
0.0003% - "6"
0.0000% - "0"
0.0000% - "4"

Processed 1/1 images ...
Classification took 1.0054
97.7721% - "2"
1.3711% - "5"
0.4363% - "7"
0.3561% - "1"
0.0440% - "6"

Processed 1/1 images ...
Classification took 0.9319
100.0000% - "3"
0.0000% - "5"
0.0000% - "8"
0.0000% - "2"
0.0000% - "9"
```

---

### 3. 参考資料

## 当社AIレジの利用シーン

# 利用シーン①

---



## コンビニエンスストア

- ・人手不足解消・人員コスト減
  - レジ店員減
  - 朝・昼ピーク時増員不要
  - 夜間帯無人化
- ・買い物待ち行列解消・機会損失の改善

## 利用シーン②

---



### コンビニ、駅ナカ等の売店

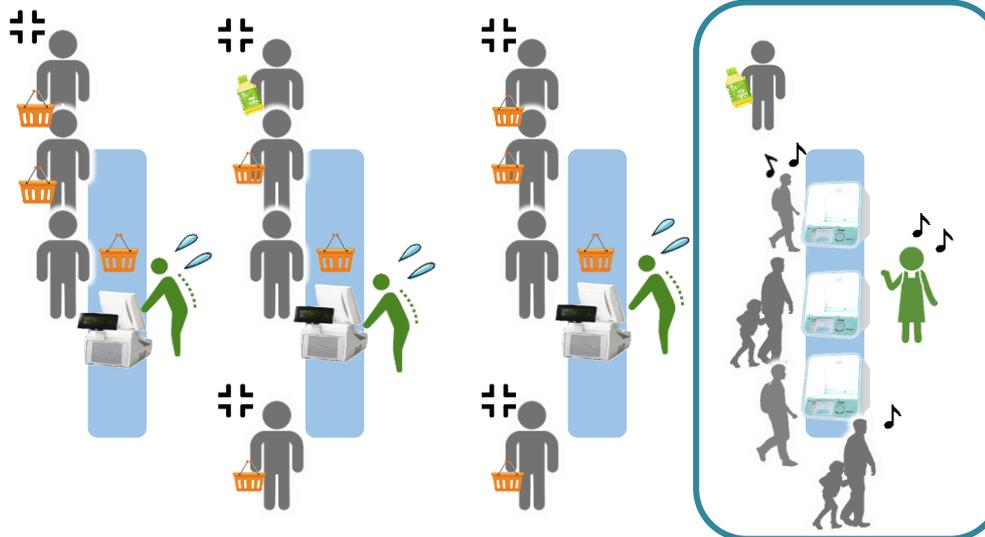
- ・ 人手不足・待ち行列・機会損失の解消
- ・ 出店ハードルの引き下げ
- ・ 電車の待ち時間内で素早く買い物

# 利用シーン③



## スーパーマーケット等(エクスプレスレーン)

- ・少量購入客の機会損失を改善
- ・買い物待ち時間短縮



【エクスプレスレーン】  
5品以内のお買物は  
ワンダーレジへ

# 利用シーン④



スーパーマーケット

ディスカウントストア

ドラッグストア



- ・ 人手不足・待ち行列・機会損失の解消
- ・ 買い物客の不正による財務ロス抑止



# 利用シーン⑤



## 職域内小規模店舗（オフィス、工場等）

- 利便性の向上
- 福利厚生充実
- 販売時間の延長
- 売店人件費の削減



# 利用シーン⑥



## 空港内売店

- ・ 人手不足・待ち行列・機会損失の解消
- ・ 飛行機の待ち時間内で素早く買い物



## 特産品販売所

- ・ 人手不足・待ち行列・機会損失の解消
- ・ 特産品などバーコードの付いていない商品の買い物

# 利用シーン⑦



## 書店

- ・人手不足・待ち行列・機会損失の解消
- ・買い物客の不正による財務ロス抑止



## アミューズメント施設

- ・新しい買い物体験(子供が使って喜ぶ)



---

## 本資料の取扱いについて

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績等は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況の他、様々な要因によって見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

当社は、これらの情報を最新のものに随時更新するという義務や方針も有しておりません。また本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

孫の代まで豊かな日本を

